



# UBS中国新時代株式ファンド

(年1回決算型) / (年2回決算型)  
追加型投信 / 海外 / 株式

## 再び強まる米中通商摩擦、長期投資では優良銘柄を組入れる好機

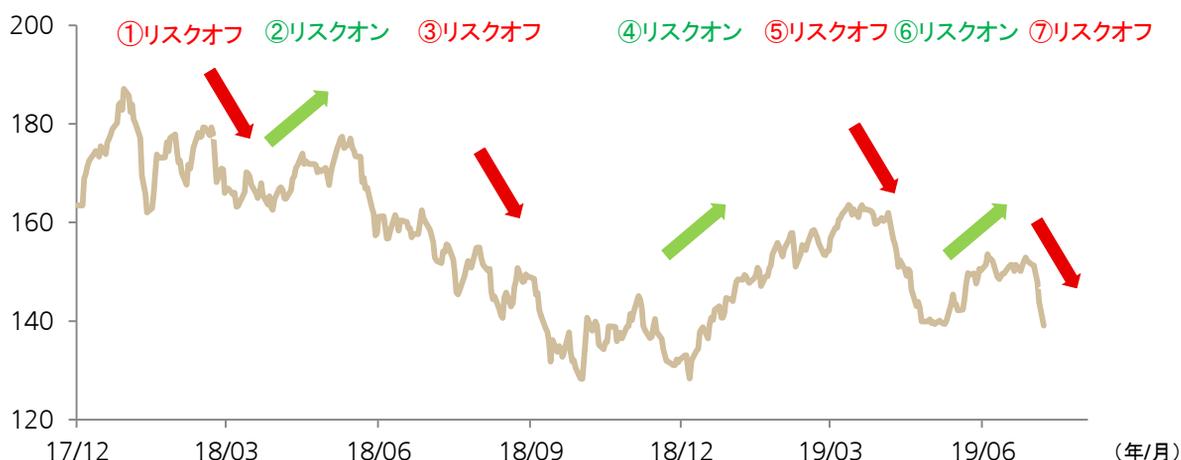
### ポイント

- トランプ米大統領が対中追加関税第4弾の発動を発表し、世界的に株式市場の変動性が高まっていますが、相場の調整局面は**良好なファンダメンタルズを持つ企業への投資の好機**となる可能性があります。
- 報道では中国経済への影響が多く報じられていますが、追加関税第4弾は生活に密着した品目が多く含まれ、実際に関税が賦課された場合、**米国の消費者への影響も大きくなる可能性**があります。
- 中国関連株の**バリュエーションは引き続き魅力的な水準**で、業績拡大等を背景に更なる上昇が期待されます。
- UBS中国新時代株式ファンド(以下、当ファンド)の組入れ上位銘柄は、米中通商摩擦の業績への直接の影響は限定的と考えられ、**高い株当たり利益成長率が見込まれます**。リスクオフが弱まる局面では良好なファンダメンタルズを反映して株価が見直される可能性があります。

### 【米中通商協議の経過と共にリスクオン(強気)/リスクオフ(弱気)に振れる中国株式市場】

- トランプ米大統領は2019年8月1日、約3,000億米ドルの中国からの輸入品に対し、9月1日から10%の追加関税を課すことを表明しました。また、人民元の対米ドル相場が1米ドル7元を超えて米ドル高元安となったことを受けて、8月5日に中国を為替操作国と指定するなど、再び対立の動きが強まっています。
- 市場はこれまでも、米中通商協議の進捗に対する期待と懸念の間でリスクオンとリスクオフを繰り返してきました。このような**相場変動におけるリスクオフ局面は、良好なファンダメンタルズを持つ企業への投資の好機**となることなくありません。長期投資においては、短期的なイベントに過剰に反応するのではなく、冷静な視点を持つことが重要です。

【図表①】米中通商協議の経過と中国株式相場の推移(現地通貨ベース) <2017年12月末~2019年8月5日>



		協議経過	市場の反応 《リスクオン(強気)/リスクオフ(弱気)》
①	2018年3月	米国が中国からの輸入品に追加関税賦課方針を表明	オフ
②	2018年5月	両国が通商協議で関税引上げを行わないことを表明	オン
③	2018年7-9月	両国が追加関税第1弾~第3弾を発動	オフ
④	2018年12月	米中通商協議の延長を決定	オン
⑤	2019年5月	交渉妥結せず両国が関税引上げ	オフ
⑥	2019年6月	両国が交渉継続で合意	オン
⑦	2019年8月	米国が追加関税第4弾発動方針を表明、中国を為替操作国に指定	オフ

出所:リフィニティブ、各種情報より当社作成。株価はMSCI中国指数。相場の値動きは上記通商協議の経過のみを反映しているわけではありません。上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。



# UBS中国新時代株式ファンド

(年1回決算型) / (年2回決算型)  
追加型投信 / 海外 / 株式

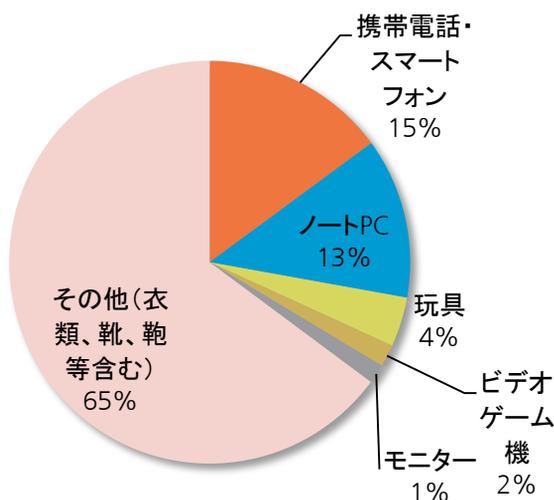
## 【米中通商摩擦】

- 米国はこれまでに追加関税の第1弾～第3弾を発動し、約2,500億米ドル(約26.5兆円)の中国からの輸入品に25%の関税を課しています。追加関税第4弾が発動されると、レアアースや一部の医薬品等を除いてほぼ全ての中国からの輸入品に追加関税が課されることとなります。(1米ドル106円で円換算)。
- 追加関税第4弾には生活に密着した品目が多く含まれており(図表③参照)、値上げなどの形で米国消費者への影響が出てくれば、2020年米大統領選挙への影響も大きくなると想定されます。
- スマートフォンやノートPC等は米国の輸入に占める中国のシェアが8～9割程度あると見られます。これらの製品は、素材や部品、加工、組み立てなどの供給網(サプライチェーン)が複数の国にまたがっており、代替輸入先を見つけるには時間がかかると見られます。

【図表②】米中の追加関税の規模と相手国からの輸入額

		米国 	中国 
2018年7月	<b>第1弾</b> 追加関税率	<b>340億米ドル</b> 25%	<b>340億米ドル</b> 25%
2018年8月	<b>第2弾</b> 追加関税率	<b>160億米ドル</b> 25%	<b>160億米ドル</b> 25%
2018年9月	<b>第3弾</b> 追加関税率	<b>2,000億米ドル</b> 10%(2019年5月に25%)	<b>600億米ドル</b> 5%-10%(2019年6月に5-25%)
2019年9月	<b>第4弾</b> 追加関税率	<b>3,000億米ドル</b> 10%	米国農産物の購入一時停止 その他対抗措置を検討
	相手国からの輸入額	約5,500億米ドル	約1,200億米ドル

【図表③】米国の追加関税第4弾に含まれる主な品目(2018年)



【図表④】追加関税第4弾の主な品目と米国の輸入に占める中国製品のシェア

	米国の輸入に占める中国製品のシェア
スマートフォン	約8割
ノートPC	約9割
ゲーム機	約9割



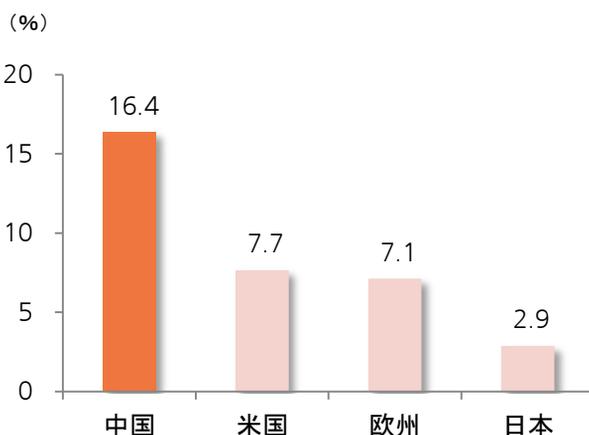
# UBS中国新時代株式ファンド

(年1回決算型) / (年2回決算型)  
追加型投信 / 海外 / 株式

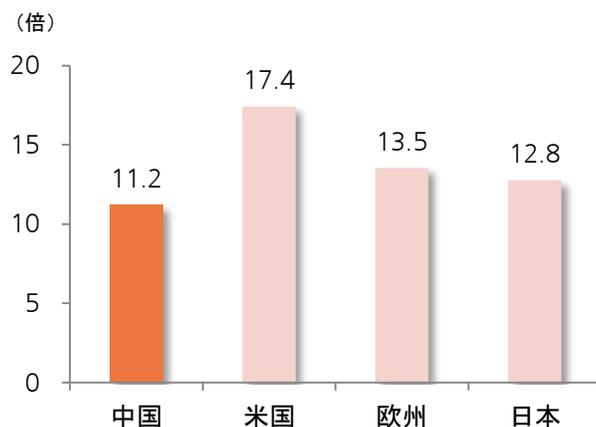
## 【業績とバリュエーション】

- 図表⑤に見られるように、中国企業の業績は主要国・地域と比べて堅調に推移する見通しです。予想1株当たり利益成長率は、過去最長の景気拡大が続いている米国を上回る見通しです。
- 米中通商摩擦は一部の輸出関連企業を中心に影響があるものの、内需関連企業を中心に企業業績の拡大が続くと見られます。
- 一方、図表⑥に見られるように、予想PERで見た株価バリュエーションは主要国・地域との比較で割安な水準に留まっています。
- 図表⑦に見られるように、米中通商摩擦の問題が起きる前の2018年1月末時点では中国の予想株価収益率は14倍超ありましたが、2019年7月末時点では11倍程度まで低下しています。
- 業績が堅調に拡大し、今後の見通しも良好である一方、株価が大きく調整したため、相対的な割安感は一層強まっています。
- 通商摩擦等の影響で株価が調整している局面は中長期的に成長が見込まれる中国への優良な投資機会になると考えられます。

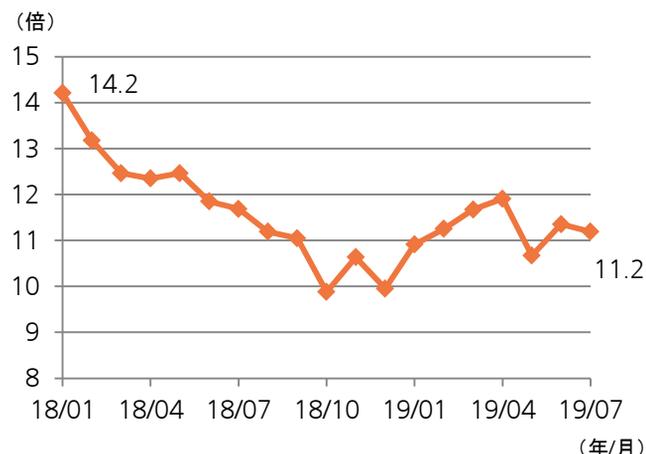
【図表⑤】主要国・地域の予想1株当たり利益成長率 (2019年7月末)



【図表⑥】主要国・地域の予想株価収益率(PER) (2019年7月末)



【図表⑦】中国の予想株価収益率(PER)推移 (2018年1月末～2019年7月末)





# UBS中国新時代株式ファンド

(年1回決算型) / (年2回決算型)  
追加型投信 / 海外 / 株式

## 【当ファンドの状況】

- 組入れ上位10銘柄を見ると、**所在地別売上高の大半は中国・香港から**という企業が大半であり、米中貿易摩擦の業績への直接的な影響は限定的と想定されます。
- 組入れ上位10銘柄の予想EPS成長率は平均で20%超が見込まれており、今後の上昇余地が大きいと考えられます。成長が期待されるセクターの中から競争力を有するリーディング企業を組入れる方針を掲げる当ファンドにとって、貿易摩擦などの悪材料で株価が調整している局面は、**優良な投資機会**となると考えられます。

【図表⑧】組入れ上位10銘柄の予想EPS成長率と所在地別売上高  
(組入れ上位10銘柄は6月末時点)

	構成比	予想EPS成長率	所在地別売上高	
			中国・香港	その他地域
好未来教育集团(TALエデュケーション・グループ)	9.2%	17.3%	100.0%	0.0%
騰訊(テンセント・ホールディングス)	8.9%	23.2%	97.1%	2.9%
アリババ・グループ・ホールディング	8.9%	23.2%	92.6%	7.4%
中国平安保険(集団)(ピンアン・インシュアランス)	8.1%	16.9%	100.0%	0.0%
貴州茅臺酒(グイジョウ・マオタイ)	4.7%	19.6%	96.1%	3.9%
招商銀行股份有限公司 (チャイナ・マーチャント・バンク)	4.3%	13.7%	-	-
深セン国際控股 (シンセン・インターナショナル・ホールディングス)	3.0%	3.1%	100.0%	0.0%
宜賓五糧液(ウーリヤンイエ・イーピン)	2.7%	24.8%	100.0%	0.0%
ニュー・オリエンタル・エデュケーション・アンド・テクノロジー・グループ	2.7%	31.0%	100.0%	0.0%
頤海国際(イーハイ・インターナショナル)	2.7%	34.1%	100.0%	0.0%
	55.2%			

【図表⑨】基準価額とMSCI中国(円換算ベース)の推移  
(2018年2月9日(設定日)~2019年8月5日)



基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の価額です。

【図表⑩】当ファンドのパフォーマンス  
(2019年8月5日時点)

	年初来	過去1年	設定来
当ファンド (年1回決算型)	20.1%	3.6%	3.2%
ご参考 (MSCI中国、円換算ベース)	0.8%	-12.9%	-16.6%
超過収益	19.3%	16.5%	19.8%

過去1年は2018年8月6日終値との比較

出所:リフィニティブ、各種情報より当社作成。構成比は、「UBS(Lux) エクイティ・ファンド - チャイナ・オポチュニティ(USD)」の純資産総額に占める割合。予想EPS成長率は2019年8月5日時点、所在地別売上高はデータ取得できた直近決算期。データ取得可能な銘柄ベース。個別の銘柄・企業名について、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。MSCI中国(円換算ベース)は当ファンドのベンチマークではありません。上記のデータは過去のもの及び予想であり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。



# UBS中国新時代株式ファンド

(年1回決算型) / (年2回決算型)  
追加型投信 / 海外 / 株式

## ファンドの特色

**1** 中国企業の株式を実質的な主要投資対象とします。

- 中国籍、香港籍もしくは主に中国に活動拠点を置く企業等の株式(預託証券等を含みます。)を主な投資対象とします。
- 中国A株への投資は、ストックコネクト※1またはQFII/RQFII※2等を通じて行う場合があります。
- 原則として対円での為替ヘッジは行いません。

**2** 構造的な成長が期待されるセクターの中で、相対的に高い競争優位性を有する企業を選別し、投資を行います。

- 中長期的な観点から構造的な成長が期待されるセクターに注目し、中でも製品、サービス、人材、ブランドなどへの充実した投資やイノベーションの追求によって競争優位性を高め、セクター全体と比較して高い成長が期待できる銘柄を選別して投資を行います。

**3** 決算頻度の異なる2ファンドからお選びいただけます。

- 「年1回決算型」と「年2回決算型」があります。

[年1回決算型] 決算日: 毎年原則2月25日(休業日の場合は翌営業日)

[年2回決算型] 決算日: 毎年原則2月25日および8月25日(休業日の場合は翌営業日)

- 原則として、各ファンドの収益分配方針に基づき分配を行います。ただし、委託会社の判断で分配を行わない場合があります。

**4** UBSアセット・マネジメント・グループが運用を行います。

- UBSアセット・マネジメント・グループは、グローバルな総合金融機関UBSグループの資産運用部門です。
- 当ファンドが投資を行うUBS (Lux) エクイティ・ファンド・チャイナ・オポチュニティ(USD)の運用は、UBSアセット・マネジメント(香港)リミテッドが行います。

※1 スtockコネクトとは、上海証券取引所または深セン証券取引所と香港証券取引所の相互間で行われる株式の取引制度です。

※2 QFII/RQFIIとは、中国証券監督管理委員会(CSRC)が認めた適格国外機関投資家に対して一定額の枠内において制限付きでA株の売買を可能とする制度です。

資金動向、信託財産の規模、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## ファンドの主なリスク

当ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動きによる影響(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を受けますが、これら運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドにかかる主なリスクは次の通りです。ただし、すべてのリスクについて記載されているわけではありません。

### ■株式の価格変動リスク

#### ・株価変動リスク

株価は、政治・経済情勢、株式の需給関係、発行企業の業績等を反映して変動します。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。新興国の株式は先進国に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

#### ・信用リスク

株式の発行企業の業績悪化や経営不安、倒産等に陥った場合には投資資金の回収が出来なくなる場合があります、基準価額に影響を与える要因となります。

### ■解約によるファンドの資金流出に伴うリスクおよび流動性リスク

短期間に相当額の解約申込があった場合や、市場を取巻く環境の急激な変化等により市場が混乱し流動性が低下した場合は、保有有価証券を市場実勢から期待される価格で売却できないことがあります。また、新興国の株式は先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

### ■為替変動リスク

実質外貨建資産については原則として対円での為替ヘッジを行いませんので、円と実質外貨建資産に係る通貨との為替変動の影響を受けることになり、円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となります。

### ■カントリー・リスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、運用方針に沿った運用が困難となったりする場合があります。なお、当ファンドが実質的に投資を行う新興諸国・地域には、一般的に先進国と比較して、「政治・経済および社会情勢等の変化の度合いおよび速度が大きい傾向にあること」、「資産の移転に関する規制等が導入される可能性が高いこと」、「企業等の開示に関する正確な情報確保が難しいこと」等のリスクおよび留意点があります。

### ■中国A株投資に関するリスク

中国の証券市場では、内外資本取引に制限が設けられており、中国政府当局の政策変更等により、現在の通貨規制、資本規制、税制等が突然変更される可能性があります。中国A株投資では、こうした中国証券制度上の制限や規制等の変更の影響を受けることがあります。

当ファンドの投資先ファンドにおいて、ストックコネクトまたはQFII/RQFIIを通じて中国A株に投資する場合があります。ストックコネクトを通じた中国A株投資では、取引執行、決済等に関する条件や制限により、意図したとおりの取引ができない場合があります。また、ストックコネクトを通じて取得した株式は現地保管機関等により保管されますが、当該株式にかかる権利行使はストックコネクト特有の条件や制限に服することとなり、権利行使が制限される可能性があること、当該株式は現地の投資家補償基金や中国証券投資家保護基金の保護の対象ではないこと等のリスクがあります。これらの要因により当ファンドの基準価額が大きく影響を受けることや、ファンドの換金請求代金等の支払いが遅延したり、信託財産の一部の回収が困難となったり、また市場の急激な変動により基準価額が大きく下落する場合があります。加えて、ストックコネクトは新しい制度であり、今後更なる規制が課される可能性があります。

## その他の留意点

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

### [指定外国投資信託における解約制限]

指定外国投資信託では、1日の解約額が指定外国投資信託の純資産総額の10%を超える等大量の解約が集中した場合に、解約申込に制限をかける場合があります。これにより、当ファンドの換金申込の一部または全部が行えないなどの影響を受ける可能性があります。

### [分配金に関する留意点]

分配金は計算期間中に発生した信託報酬等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)を超過して支払われる場合がありますので、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金はその支払いの一部ないし全てが実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。また、ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。なお、分配金の支払いは純資産総額から行われますので、分配金支払いにより純資産総額は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。

「リスク管理体制」等については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当ファンドの購入時や保有期間中には以下の費用がかかります。

■ 投資者が直接的に負担する費用

時期	項目	費用
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、 <b>3.24% (税抜 3.00%) 以内*</b> で販売会社が定める率を乗じて得た額を、販売会社が定める方法により支払うものとします。 *消費税率が10%になった場合は、3.3%以内となります。 ※購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続きの対価です。
換金時	信託財産留保額	ありません。

■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

時期	項目	費用		
保有時	運用管理費用 (信託報酬)	当ファンド	日々の純資産総額に <b>年率1.8684%*(税抜年率1.73%)</b> を乗じて得た額とします。 *消費税率が10%になった場合は、 <b>年率1.903%</b> となります。 (運用管理費用(信託報酬)＝運用期間中の基準価額×信託報酬率) 配分は以下の通りです。(税抜、年率表示)	
		委託会社	0.85%	委託した資金の運用の対価
		販売会社	0.85%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
		受託会社	0.03%	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用(信託報酬)は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のとき([年1回決算型]においては、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日を含みます。)ファンドから支払われます。	
		投資対象とする投資信託証券	ファンドの純資産総額に対して年率0.18%程度 (委託会社が試算した概算値)	
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して <b>年率2.0484%程度*</b> *消費税率が10%になった場合は、 <b>年率2.083%程度</b> となります。	
		その他の費用・手数料	諸費用(日々の純資産総額に対して上限年率0.1%)として、日々計上され、原則毎計算期末または信託終了のとき([年1回決算型]においては、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日を含みます。)ファンドから支払われる主な費用	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用	
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用(EDINET含む)等	
		実費として、原則発生 of 都度ファンドから支払われる主な費用		
	売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料		
	保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用		
		※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。		

投資者の皆様にご負担いただく手数料などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

購入単位	販売会社が独自に定める単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（基準価額は1万口当たりで表示、当初元本1口＝1円）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が独自に定める単位とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社でお支払いします。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
購入・換金不可日	香港証券取引所、上海証券取引所もしくは深セン証券取引所の休業日またはルクセンブルクの銀行の休業日と同日の場合には、購入および換金の申込の受け付けは行いません。
信託期間	2018年2月9日から2028年2月25日まで ※受益者に有利であると認めるときは信託期間の延長をすることができます。
繰上償還	各ファンドについて、信託契約締結日より1年経過後（2019年2月9日以降）に信託契約の一部解約により純資産総額が30億円を下回ることとなったとき、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときには、ファンドが繰上償還となることがあります。
決算日	[年1回決算型] 原則として毎年2月25日（休業日の場合は翌営業日） [年2回決算型] 原則として毎年2月25日および8月25日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	[年1回決算型] 毎決算時（毎年2月25日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。）に収益分配方針に基づいて分配を行います。（再投資可能） [年2回決算型] 毎決算時（毎年2月25日および8月25日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。）に収益分配方針に基づいて分配を行います。（再投資可能）
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 益金不算入制度および配当控除の適用はありません。

## ファンドの関係法人

委託会社	UBSアセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第412号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	野村證券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 株式会社新生銀行 登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会

本資料は、運用状況に関する情報提供を目的として、UBSアセット・マネジメント株式会社によって作成された資料です。投資信託は値動きのある有価証券（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本は保証されているものではありません。また、投資信託は預貯金とは異なり、元本は保証されておらず、投資した資産の減少を含むリスクがあることをご理解の上、購入のお申込をお願いいたします。投資信託は預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関を通じてご購入頂いた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。本資料で使用している指数等に係る知的所有権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。本資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料の中で記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。購入のお申込にあたっては、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断くださいますようお願いいたします。

© UBS 2019. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。